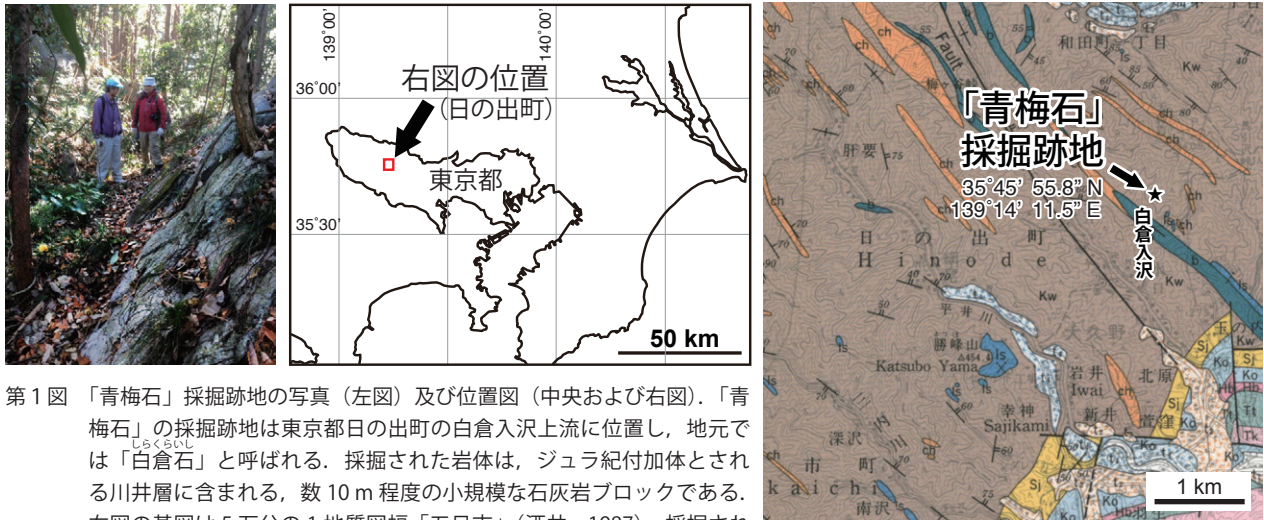


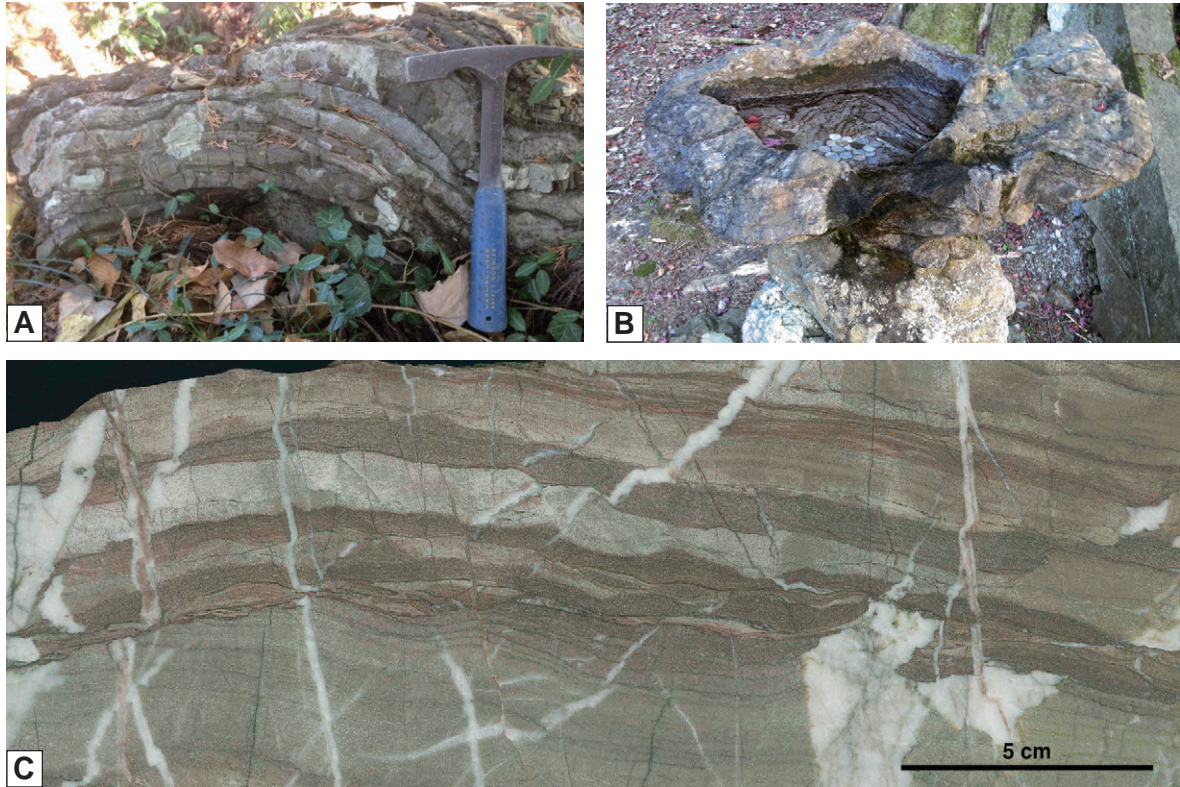
東京都日の出町産大理石石材「青梅石」

中澤 努¹⁾・上野勝美²⁾・乾 睦子³⁾・鎌田光美⁴⁾

東京都日の出町産の大理石石材「青梅石」は、昭和11年竣工の国会議事堂の内装に用いられた石材として高い関心が持たれているが（工藤ほか，1999；乾・北原，2009），その産地及び岩相の詳細は知られていなかった。筆者らはこのたび「青梅石」の採掘跡地を訪れ，石材に使用された石灰岩の岩相を検討したので紹介する。



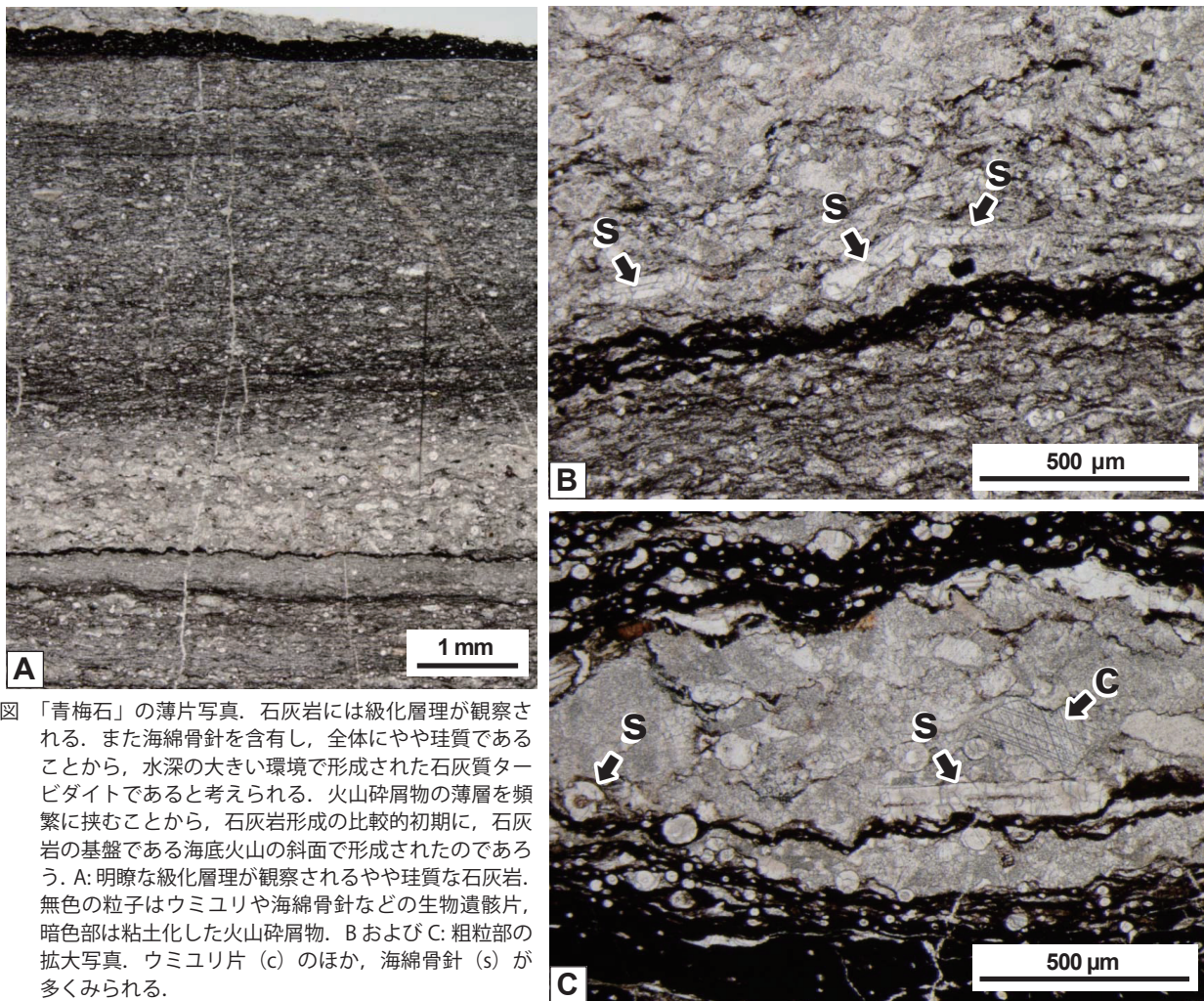
第1図 「青梅石」採掘跡地の写真（左図）及び位置図（中央および右図）。「青梅石」の採掘跡地は東京都日の出町の白倉入沢上流に位置し，地元では「白倉石」と呼ばれる。採掘された岩体は，ジュラ紀付加体とされる川井層に含まれる，数10 m程度の小規模な石灰岩ブロックである。右図の基図は5万分の1地質図幅「五日市」（酒井，1987）。採掘された石灰岩体は小規模なためこの地質図には表現されていない。Kw: 川井層含礫泥岩・砂岩泥岩互層及び砂岩，ch: チャート，b: 玄武岩，ls: 石灰岩，他の凡例は上記地質図幅を参照のこと。



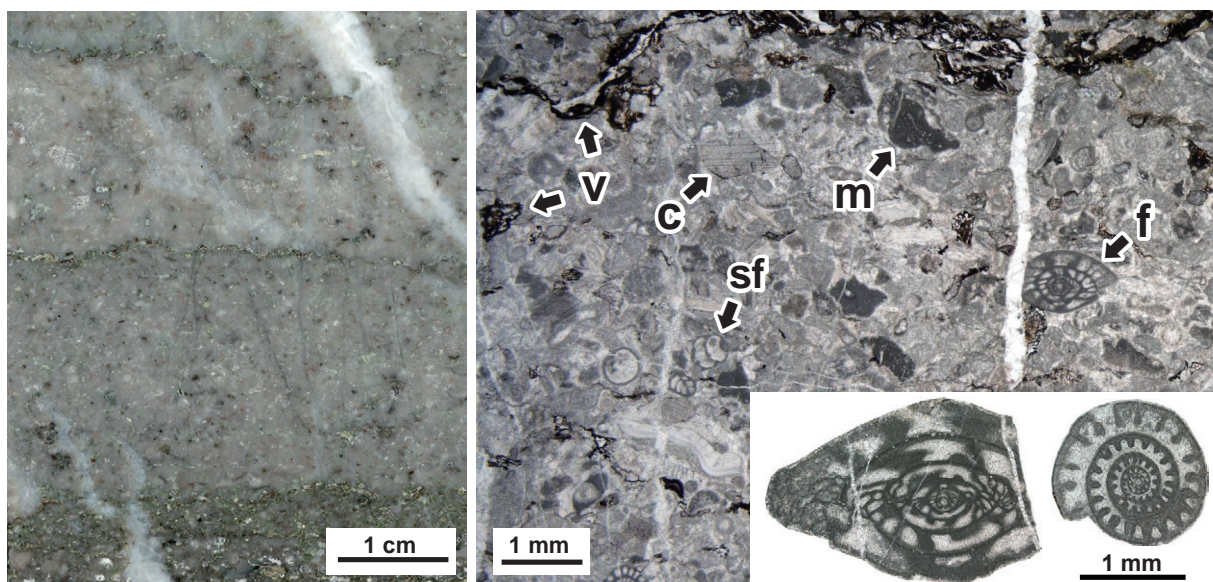
第2図 「青梅石」の岩相。A: 採掘跡地での露頭写真，珪質の石灰岩に火山碎屑物の薄層を挟み，全体に層状を呈する。B: 日の出町肝要の一護王神社の手水石に使用されている「青梅石」。採掘跡地にみられたものと同一の層状石灰岩を，自然の形状を活かして加工している。C: 採掘跡地で採取した「青梅石」の研磨面標本，火山碎屑物（赤褐色層）を頻りに挟む珪質の石灰岩からなる。カルサイトベインが多く発達する。

1) 産総研 地質調査総合センター 地質情報研究部門
 2) 福岡大学 理学部 地球圏科学科
 3) 国土庁 国土工学部
 4) 日の出町観光ガイドの会

NAKAZAWA Tsutomu, UENO Katsumi, INUI Mutsuko and KAMATA Mitsumi (2015) Building stone (limestone) "Ome-ishi" obtained from Hinode-machi, Tokyo, central Japan.



第3図 「青梅石」の薄片写真。石灰岩には級化層理が観察される。また海綿骨針を含有し、全体にやや珪質であることから、水深の大きい環境で形成された石灰質タービダイトであると考えられる。火山碎屑物の薄層を頻りに挟むことから、石灰岩形成の比較的初期に、石灰岩の基盤である海底火山の斜面で形成されたのであろう。A: 明瞭な級化層理が観察されるやや珪質な石灰岩。無色の粒子はウミユリや海綿骨針などの生物遺骸片、暗色部は粘土化した火山碎屑物。BおよびC: 粗粒部の拡大写真。ウミユリ片(c)のほか、海綿骨針(s)が多くみられる。



第4図 「青梅石」採掘跡地で採取した、やや粗粒な生物遺骸片からなる石灰岩 (bioclastic grainstone) の研磨面写真 (左) と薄片写真 (右)、及び産出するフズリナの薄片写真 (右下)。採掘跡地には、典型的な縞状の「青梅石」のほか、海綿骨針をほとんど含まず、より粗粒な石灰質の生物遺骸片からなる塊状灰白色石灰岩もみられた。この石灰岩には後期石炭紀カシモビアン期のフズリナ *Montiparus matsumotoi* (Kanmera) (右下写真) を含むことから、「青梅石」採掘跡地の石灰岩体は主に上部石炭系 (ペンシルバニアン垂系) からなると考えられる。f: フズリナ, sf: 小型有孔虫, c: ウミユリ, m: 微生物岩片, v: 火山碎屑物

文献

- 乾 睦子・北原 翔 (2009) 日本の建築用大理石石材と産地の現状. 地質学雑誌, 115, I-II.
 工藤 晃・大森昌衛・牛来正夫・中井 均 (1999) 新版 議事堂の石. 新日本出版社, 東京, 158p.
 酒井 彰 (1987) 五日市地域の地質. 地域地質研究報告 (5万分の1地質図幅), 地質調査所, 75p.